

農村ツーリズム展開方針

令和 2 年 (2020 年) 9 月 15 日
檜山振興局

1 地域の現状

檜山管内は、北海道の南西部、渡島半島の日本海側に位置し、大成沖 27 km にある離島の奥尻町を含む 7 町で構成されている。北上する対馬海流の影響で比較的温暖な気候であり、米や畑作、野菜・花き、酪農など、地域の特色を生かした複合経営が営まれている農業、檜山の由来であるヒノキアスナロ（ヒバ）、スギやトドマツなどの林業、イカやスケトウダラ、ウニやアワビ、ナマコなどの多種多様な漁業など、バラエティ豊かで特色のある一次産業が展開されている。

また、道内でも極めて古い歴史と文化を有しており、江差追分をはじめとする多くの文化財や郷土芸能が伝承されている。さらには、道南の中核都市である函館市に近く、北海道新幹線、空港や港湾などの交通や物流の拠点にも近い。

2 地域の抱える課題

檜山地域の農業は、ほとんどの町で農業産出額が増加傾向に推移しているものの、販売農家戸数減少率は全道平均を上回っており、担い手不足や高齢化の進行と合わせ、労働力、人材確保への対応が急務である。また、秋が長いなど農耕に適した期間が長いこと、様々な品目が収穫可能で、地域の特色を生かした複合経営が営まれているものの、農業就業者数も減少していることから、農作業の効率化や省力化が課題となっており、地域にあったスマート農業の推進と計画的な基盤整備が必要。

観光業では、豊かな歴史遺産と伝統的な祭りなどの魅力ある観光資源を活かしながら、バリアフリー観光や食と観光が一体となった取組を進めているものの、北海道新幹線効果の縮小や、今般の新型コロナウイルスの影響により国内外の宿泊客・来訪者数は大きく減少する見通しとなっている。

3 今後の展開方針

○農林水産業のほか、歴史や伝承文化など多様な地域資源を活かした農泊等の推進や、教育旅行の受入拡大による交流・関係人口の増加を図り、交流人口の拡大と将来の地域における就労・就学等につなげるとともに、受入を通じた地域関係者の連携や地元の魅力の再確認による地域の活性化を目指す。

○函館市に日本で初めて外資のワイナリーが参入するなど、ワインに対する道南地域への期待が高まっている環境を活かして、広域でのワインツーリズム等、新たな国内外からの交流人口の拡大に努める。

○SNSなどを活用した情報発信の強化促進。

○新型コロナウイルス収束後の観光需要の早期回復を地域一丸となって取り組むとともに、「新北海道スタイル」の実践し、withコロナに対応した接客方法の習得に努める。

○研修会等の開催により、補助事業等各種制度の周知・啓発に努めるとともに、関係者の連携した取組を促す。